

令和
8年度

宝塚市
病院事業会計

予算

宝塚市立病院

目次

1. 令和6年度から3カ年の経緯	・・・	1
2. 令和8年度の経営方針	・・・	2
3. 業務量	・・・	2
4. 予算の詳細（税込）	・・・	3
5. 主要施策	・・・	5
6. 収益的収入及び支出の推移	・・・	6
7. 主な経営数値	・・・	7

1. 令和6年度から3カ年の経緯

市と市立病院は令和6年(2024年)3月に経営強化プランを策定し、併せて新病院の整備を決定しました。市立病院は令和8年度(2026年度)の経常収支黒字化を目指して、令和6年度(2024年度)から3カ年に亘る経営目標を定め、実現に向けて取り組んできました。

令和6年度(2024年度)は、東病棟外大規模改修工事に伴い稼働病床数を制限せざるを得ないなか、入院患者1人1日あたりの単価が上昇するとともに患者数も前年度と比べて増加させることができたことから、経常収支は1億7千万円余の損失にとどまり、令和6年度経営目標「赤字体質からの脱却」に沿う結果を得ました。

令和7年度(2025年度)は、急性期充実体制加算2の施設基準を満たしたことに加えて、当院の入院診療の効率性が診療報酬で評価されたことで入院単価が更に向上しましたが、入院患者数は伸び悩み、加えて人件費の上昇と物価の高騰により費用が増加して、経常収支は令和6年度(2024年度)と比べて悪化しています。診療面では待望の手術支援ロボットの導入が市民のご寄附により実現し、外科と泌尿器科で本年1月から手術を開始しています。手術支援ロボットは手術での出血を抑え、手術後の疼痛軽減や早期回復を可能にする医療機器であり、令和8年度(2026年度)には産婦人科と上部消化管外科の領域でも手術を開始します。

令和8年度(2026年度)は、看護師確保の目処が立ったことから現在運営を休止している7階西病棟を早期に再開して入院患者の受け入れ体制を拡大します。さらに、産婦人科医3名を招へいし、周産期医療を除く産婦人科の入院診療を再開するほか、上部消化管の専門医1名を増員して診療内容の充実を図ります。なお、令和8年6月から診療報酬の引き上げ(薬価を除く改定率はプラス2.41%)が実施されるものの、市立病院の収益への影響は未だ明確ではないため、改定率プラス2.41%の上昇をもって予算を編成しました。今後、一段と厳しい経営状況となることも覚悟し、更なる経営改善に取り組む必要性を認識しています。



3カ年の経営目標

令和6年度	赤字体質からの脱却	(ファーストステップ)
令和7年度	収支均衡	(セカンドステップ)
令和8年度	持続可能な病院経営	(サードステップ)

2. 令和8年度の経営方針

3ヵ年の最終目標「持続可能な病院経営」の実現に向けた経営方針を次のとおり掲げます。

(1) 全病棟の稼働と効率性の確保

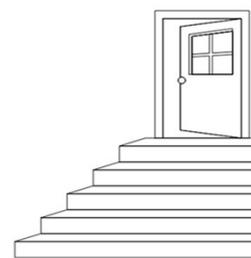
- ・ 令和8年度の早期に全病棟を稼働させます
- ・ 一日平均入院患者数の目標を全病棟稼働後は311人/日(稼働率89%)と定め、DPC I・II期間内退院率の目標を71%と定めます
- ・ 急性期充実体制加算2の算定要件を継続して満たします

(2) 患者さんに選ばれる病院づくり (患者満足度の向上)

- ・ 患者さんご家族から「選んで良かった」と満足いただける病院づくり
- ・ 産婦人科(周産期を除く)の入院治療の再開
- ・ がん診療連携拠点病院に相応しい体制を整備し、活動の活性化を図ります(県指定のがん診療連携拠点病院から国指定へ変更申請中)
- ・ 手術支援ロボットを使用した手術数100件/年
- ・ 病院機能評価の認定(全項目B以上)

(3) 働きやすい職場の創造 (職員満足度の向上)

- ・ 働き方改革の推進
- ・ ハラスメントのない職場づくり



3. 業務量

前年度予算の業務量と比較すると、入院の1日平均患者数は全病棟を稼働させることにより16人増加する一方、外来の1日平均患者数は逆紹介の推進により40人減少します。単価は入院・外来のいずれも増加すると見込んでいます。



4. 予算の詳細（税込）

（1）収益的収入及び支出

令和8年度予算のうち収益的収入及び支出は次のとおりです。

（千円）

	区 分	令和8年度	令和7年度	増減額	前年比(%)	備考
収 入	医 業 収 益	14,056,971	12,792,682	1,264,289	109.9	
	（入院収益）	8,801,172	7,727,050	1,074,122	113.9	※1
	（外来収益）	4,538,025	4,351,740	186,285	104.3	※2
	（他会計負担金）	520,766	494,630	26,136	105.3	
	（その他）	197,008	219,262	△22,254	89.9	
	医 業 外 収 益	1,204,183	1,189,151	15,032	101.3	
	（受取利息）	1	1	0	100.0	
	（他会計補助金）	287,199	284,839	2,360	100.8	
	（他会計負担金）	125,427	168,340	△42,913	74.5	
	（国県補助金）	11,970	13,604	△1,634	88.0	
	（長期前受金戻入）	124,444	55,943	68,501	222.4	※3
	（資本費繰入収益）	545,851	552,623	△6,772	98.8	
	（雑収益）	1	1	0	100.0	
	（その他）	109,290	113,800	△4,510	96.0	
特 別 利 益	3,001	3,001	0	100.0		
（固定資産売却益）	1	1	0	100.0		
（過年度損益修正益）	3,000	3,000	0	100.0		
収 入 合 計	15,264,155	13,984,834	1,279,321	109.1		
支 出	医 業 費 用	15,314,562	14,051,373	1,263,189	109.0	
	（給与費）	7,463,368	6,916,831	546,537	107.9	※4
	（材料費）	4,054,949	3,641,945	413,004	111.3	
	（経費）	2,806,665	2,564,895	241,770	109.4	※5
	（減価償却費）	934,483	870,856	63,627	107.3	※6
	（その他）	55,097	56,846	△1,749	96.9	
	医 業 外 費 用	169,473	126,455	43,018	134.0	
	（支払利息等）	79,451	43,186	36,265	184.0	
	（長期前払消費税償却額）	70,021	63,268	6,753	110.7	
	（消費税）	20,000	20,000	0	100.0	
	（雑支出）	1	1	0	100.0	
	特 別 損 失	10,001	10,001	0	100.0	
	（固定資産売却損）	1	1	0	100.0	
	（過年度損益修正損）	10,000	10,000	0	100.0	
予 備 費	30,000	30,000	0	100.0		
支 出 合 計	15,524,036	14,217,829	1,306,207	109.2		
収益的収支差額		△259,881	△232,995	△26,886	-	

(2) 資本的収入及び支出

令和8年度予算のうち資本的収入及び支出は次のとおりです。

(千円)

	区 分	令和8年度	令和7年度	増減額	前年比(%)	備考
収 入	企 業 債	718,100	468,000	250,100	153.4	
	他 会 計 負 担 金	19,608	10,400	9,208	188.5	
	寄 附 金	1	1	0	100.0	
	他 会 計 補 助 金	3,071	0	3,071	皆増	
	収 入 合 計	740,780	478,401	262,379	154.8	
支 出	建設改良費	457,458	540,387	△82,929	84.7	
	(建設改良工事費)	138,493	336,700	△198,207	41.1	※7
	(固定資産購入費)	315,718	197,483	118,235	159.9	※8
	(リース資産購入費)	3,247	6,204	△2,957	52.3	
	企業債償還金	1,106,528	1,046,118	60,410	105.8	
	他会計借入金償還金	70,000	300,000	△230,000	23.3	
	支 出 合 計	1,633,986	1,886,505	△252,519	86.6	
資本的収支差額	△893,206	△1,408,104	514,898	-		

資本的収支不足額893,206千円は損益勘定留保資金等で補填する。

(備考欄の説明)

※1 延患者数111,690人 × 入院単価78,800円 = 8,801,172千円

※2 延患者数201,690人 × 外来単価22,500円 = 4,538,025千円

※3 増加の主な理由
手術支援ロボットの購入について寄附があったため

※4 職員数(長期休業者を含む)
令和8年度 医師 88人、看護師 413人、医療技術 123人、事務職員 32人
令和7年度 医師 83人、看護師 367人、医療技術 123人、事務職員 31人

※5 増加の主な理由
他病院からの出向職員受け入れ(25人)に要する負担金161,991千円があるため

※6 増加の主な理由
手術支援ロボットの減価償却が始まるため

※7 建設改良工事費の内訳
施設改修事業 123,001千円
看護師宿舎・医師住宅解体設計業務委託 9,350千円
地歴調査業務委託 6,142千円

※8 固定資産購入費の主な内容
医療情報システムの導入・更新 155,844千円
医療機器整備 100,000千円

5. 主要施策

令和8年度の主要施策は次のとおりです。

(1) 施設改修事業 (123,001千円)

築40年以上経過している現病院を新病院開院まで使用するために必要な設備の更新・修繕を行います。本年度は、電話交換設備、医療ガス設備、サーバー室の空調等を更新・修繕します。また、国の脱炭素化事業を活用し、プロムナード等のLED化工事を行います。

資本的支出 > 建設改良費 > 建設改良工事費



LED照明

(2) 新病院整備事業 (15,492千円)

新病院の建設に向けた準備として、土壌汚染の可能性を調査する地歴調査を実施するとともに、工事期間中の駐車場の確保に向けて医師住宅及び看護師宿舎の解体設計を行います。

資本的支出 > 建設改良費 > 建設改良工事費



看護師宿舎

(3) 診療科等に関する施策

ア 産婦人科

3名の医師を増員し、産婦人科（周産期を除く）の入院治療を再開するとともに、外来治療の充実を図ります。

イ 消化器外科

上部消化器外科を専門とする医師を1名増員し、手術支援ロボットを使った手術を開始します。

ウ 小児科

医師を1名増員し、入院治療及び外来治療の充実を図ります。

エ 入院病棟

看護師を46名増員（令和7年度当初予算との比較、他病院からの出向を除く）し、令和8年度の早期に全病棟を稼働させます。合わせて、現在稼働している病棟の総室の一部を4床化します。



手術支援ロボット

6. 収益的収入及び支出の推移

収益的収入及び支出の令和8年度予算（税込）、令和7年度決算見込（税込）、令和6年度決算（税込）の内容は次のとおりです。

（千円）

	区 分	令和8年度 予算（税込）	令和7年度 決算見込（税込）	令和6年度 決算（税込）
収 入	医業収益	14,056,971	12,959,451	12,430,855
	（入院収益）	8,801,172	7,623,298	7,382,011
	（外来収益）	4,538,025	4,652,425	4,340,630
	（他会計負担金）	520,766	494,630	530,193
	（その他）	197,008	189,098	178,021
	医業外収益	1,204,183	1,279,564	1,151,070
	（受取利息）	1	1,347	558
	（他会計補助金）	287,199	258,083	255,759
	（他会計負担金）	125,427	130,817	139,759
	（国県補助金）	11,970	239,451	19,351
	（長期前受金戻入）	124,444	55,509	55,945
	（資本費繰入収益）	545,851	463,302	535,387
	（雑収益）	1	0	1
	（その他）	109,290	131,055	144,310
特別利益	3,001	601	23,349	
（固定資産売却益）	1	0	0	
（貸倒引当金戻入）	0	0	260	
（過年度損益修正益）	3,000	601	23,089	
収入合計	15,264,155	14,239,616	13,605,274	
支 出	医業費用	15,314,562	14,446,630	13,628,354
	（給与費）	7,463,368	7,193,752	6,904,011
	（材料費）	4,054,949	3,938,262	3,516,195
	（経費）	2,806,665	2,449,829	2,352,022
	（減価償却費）	934,483	811,602	810,236
	（その他）	55,097	53,185	45,890
	医業外費用	169,473	117,364	129,640
	（支払利息等）	79,451	43,530	43,791
	（長期前払消費税償却額）	70,021	53,830	65,454
	（消費税）	20,000	20,000	19,162
	（雑支出）	1	4	1,233
	特別損失	10,001	292,053	5,503
	（固定資産売却損）	1	0	0
	（過年度損益修正損）	10,000	292,053	5,503
予備費	30,000	0	0	
支出合計	15,524,036	14,856,047	13,763,497	
収益的収支差額	△ 259,881	△ 616,431	△ 158,223	

7. 主な経営数値

(1) 経常収支比率

経常費用が経常収益によってどの程度まかなえているかを示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡、100%未満では損失が発生しています。令和5年度から4年連続で100%を下回る見込みです。

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込み)	令和8年度末 (見込み)
経常収支比率 (%)	104.5	96.9	98.7	97.8	98.6

(2) 純利益及び未処分利益剰余金

当年度純利益は、令和6年度から3年連続ではマイナス（純損失）となる見込みです。令和7年度が大きくマイナスとなっているのは、令和5年度に交付された一般会計経営支援補助金を精算し、286,397千円返還したことが理由のひとつです。

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込み)	令和8年度末 (見込み)
当年度純利益 (千円)	586,971	385,620	△ 158,329	△ 616,431	△ 229,881
未処分利益剰余金 (千円)	1,320,496	1,706,115	1,547,786	931,355	701,474

(3) 年度末の一時借入金及び長期借入金残高

各年度末における一時的な借入金（短期的な借入金）と長期的な借入金の残高は次のとおりです。引き続き資金不足の解消及び財政状態の健全化に取り組んでいきます。

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込み)	令和8年度末 (見込み)
一時借入金 (千円)	0	0	0	0	0
長期借入金 (千円)	1,160,000	1,150,000	1,150,000	850,000	780,000

(4) 企業債借入額、償還額及び残高

企業債とは施設の建設・改修や医療機器の購入等に充てるために国等から借りる資金のことです。令和7年度および令和8年度は経営改善推進事業債の借入がそれぞれ670,000千円、330,000千円あるため、企業債借入額が大きくなっています。

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末 (見込み)	令和8年度末 (見込み)
企業債借入額 (千円)	864,500	383,700	549,600	1,802,900	718,100
企業債償還額 (千円)	1,007,236	1,040,247	1,030,250	926,604	1,106,528
企業債残高 (千円)	6,390,138	5,733,591	5,252,941	6,129,237	5,740,809